

明治期自在置物の博覧会等出品年表 The chronology of Jizai Okimono in Meiji period

明治期を中心とした自在置物および自在置物と思われる作品の博覧会、展覧会などへの出品記録。

(Last updated: 21 Jan. 2019)

明治16年 (1883)

第四回観古美術会

・松平確堂 出品

明珍作鐵屈伸龍文鎮

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849465/22>

明治18年 (1885)

ニュルンベルク金工万国博覧会

・斎藤政吉 出品

「四支活動スル銅製鐵製ノ海蝦及ヒ鐵製蠶螂」

金牌授与

『金工万国博覧会報告』による

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/854110/16>

明治21年 (1888)

日本美術協会 明治廿一年美術展覧会

・松平茂昭 出品

鋼鍍製伸縮龍 一個

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849734/40>

・松平直徳 出品

鐵鳳凰置物 明珍作 一個

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849734/25>

・益田孝 出品

明珍作鋼鐵伸縮海老 一個

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849734/41>

松平茂昭、松平直徳がこのとき出品したとみられる龍、鳳凰の写真が「東京国立博物館所蔵 古写真データベース」の『美術会列品写真帖』で確認できる。

鉄製伸縮龍

http://webarchives.tnm.jp/infolib/meta_pub/G0000002070607HP_4089

伸縮鳳凰

http://webarchives.tnm.jp/infolib/meta_pub/G0000002070607HP_4108

明治22年（1889）

一月十九日 日本美術協会列品館における同会の常会

・山東直砥 出品

鐵製龍置物 一個

古製品、新製品の別は不明。

当年の発会および有栖川宮殿下御臨場とのことで多数の美術品の出品があった。

『日本美術協会報告』（14号 明治22年）

日本美術協会 明治廿二年美術展覧会

・鈴木長吉 出品

鐵製紳（ママ）縮大龍 一個

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849736/81>

明治23年（1890）

日本美術協会 明治廿三年美術展覧会

・伊達宗城 出品

明珍作龍文鎮 一個

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849735/5>

『明治廿二年臨時美術展覧会目録第壹號』に記載されているが、1、2号は『明治廿二年臨時美術展覧会目録』として明治22年11月、3-5号は『明治廿三年美術展覧会目録』として翌明治23年に発行されており、明治23年の美術展覧会への出品とみられる。

明治24年（1891）

日本美術協会 美術展覧会春季展

・山東直砥出品 工人 和歌山縣板尾新次郎

「鐵製架鷹置物」

銀牌受賞

『日本美術協会報告』（41号 明治24年）

「明珍ノ遺意ヲ襲フ精熟ノ域ニ達シ鷲鳥ノ眞ヲ寫シテ鐵羽將ニ翔ラントス近日未タ其類ヲ看サル所ナリ」

『絵画叢誌 第五十巻』（明治24年）での作品呼称は「屈伸自在なる鉄製鷹の置物」。

下村英時「奇工板尾新次郎伝—恐るべき伝統技術の闘争史」の記述では

「鷲の置物」が山東直砥による出品で銀牌受賞とされており、同一作と思われる。

東京文化財研究所編『近代日本アート・カタログ・コレクション 017 日本美術協会第2巻』ゆまに書房 2001年 所載『明治廿四年美術展覧会出品目録』（第一から第四）には出品記録が見られない。

・野口清次

素銅製屈伸蝦置物 自作

褒状一等

『日本美術協会報告』（41号 明治24年）

「尾ヲ揮ヒ脚ヲ動シ伸縮自在巧緻観ルベク銅色モ亦眞ニ逼ラントス」

- ・佐野常民 出品（古書画器物之部）

鐵製屈伸蟹鎮紙 一個

東京文化財研究所編『近代日本アート・カタログ・コレクション 017 日本美術協会第2巻』ゆまに書房 2001年 所載『明治廿四年美術展覧会出品目録 第四』

明治25年（1892）

日本美術協会 明治廿五年美術展覧会

- ・川口與兵衛 出品

鐵製龍置物 一個

（古製品としての出品）

東京文化財研究所編『近代日本アート・カタログ・コレクション 018 日本美術協会第3巻』ゆまに書房 2001年 所載『明治廿五年美術展覧会出品目録』

明治26年（1893）

一月二十一日 日本美術協会列品館における同会の常会

- ・「板屋（ママ）新次郎作練鐵製鷺置物一個」 齋藤政吉出品

『日本美術協会報告』（62号 明治26年）

同文献巻末に作品図版掲載。「板尾新次郎」となっておりシカゴ万国博覧会出品作とみられる。

日本美術協会明治廿六年春季美術展覧会

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849445/23>

- ・松平康荘 出品

鉄伸縮龍 明珍作 二個

鉄伸縮緞文鎮（同） 同

シカゴ・コロンプス万国博覧会

- ・板尾新次郎

鉄製鷺 齋藤政吉 出品（第九十三部）

『官報』第三二三三号 明治27年4月13日

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2946497/6>

受賞人名に「鉄製鷺其他美術金属器」の出品人

齋藤政吉の名が確認できる。

明治27年（1894）

日本美術協会明治廿七年春季展覧会

・板尾新次郎

鐵製海老置物 山東直砥 出品

三等賞銅牌

『日本美術協会報告』（77号及び78号 明治27年）

下村英時「奇工板尾新次郎伝--恐るべき伝統技術の闘争史」にも記述あり。

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40000021375>

東京文化財研究所編『近代日本アート・カタログ・コレクション 019 日本美術協会第4巻』ゆまに書房 2001年 所載の『明治廿七年春季美術展覧会出品目録 上』には山東直砥出品「鐵製屈伸蝦置物 一個」の記載のみで作者名は記されていない。

なお、以下の文献では板尾新次郎の屈伸自在鉄製鷹置物をこの展覧会での二等賞銀牌受賞作としているが、上記『日本美術協会報告』では本作の受賞記録はない。

『日本美術画報 初編巻五』（1894年10月25日）

<http://www.tobunken.go.jp/materials/gahou/108946.html>

明治28年（1895）

第四回内国勸業博覧会

・板尾新次郎

銀鍍鸚鵡置物

妙技三等賞

『第四回内国勸業博覧会審査報告第二部美術』

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/801947/70>

「板尾新次郎ノ鸚鵡ハ特殊ノ工作ニシテ生禽ヲ飼養シ其活動ノ状ヲ寫ス頭嘴或ハ俯シ或ハ仰キ翼羽乍チ翕ヒ乍チ張り趾屈伸自在ニシテ凡テ六様ノ變化ヲ爲ス弾機螺條ノ装置複雑ナラスシテ極メテ宛滑ナリ是レ其妙技三等賞ヲ得ル所以ナリ」

・岡本鉦太郎製 伊藤庄八出品

鉄蟹香合

鉄鬼（ママ）虫雌雄

鉄蜻蛉

鍍蠟螂雌雄

『第四回内国勸業博覧会出品部類目録 第1部 工業 下』

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/801935/144>

明治32年（1899）

東京彫工会第十四回彫刻競技会

・高石重義 高石清三郎出品

「鐵製延縮龍之置物」「鐵製伸縮龍」（二種の表記が見られる）

銅賞牌

東京文化財研究所編『近代日本アート・カタログ・コレクション 第2期 086
東京彫工会 第2巻』ゆまに書房 2008年 による。
官報 1899年10月31日 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2948191/3>
(受賞者名の中にその名が確認できる)

明治33年 (1900)

パリ万国博覧会

・板尾清春 (板尾新次郎)

鸚鵡置物

『美術画報 臨時増刊 巴里博覧会出品組合製作品』

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849706/145>

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849706/144>

「銀の鍛成にして、屈伸運動自在なり、餌壺及び棲 (とま) り木の装飾には細巧
の象嵌を施す」

パリ万国博覧会公式カタログ “Catalogue général officiel, Exposition
internationale universelle de 1900” に記載 (第十五部第九十四類)。

Itao (Kiyoharu), à Osaka. – Argent repoussé : Perroquet.

<http://cnum.cnam.fr/CGI/fpage.cgi?12XAE54.17/145/100/831/16/830>

第十五部第九十七類には鉄製の孔雀の出品も確認できる。

Itao (Kiyoharu), à Osaka. – Fer incrusté d’or : Paon.

<http://cnum.cnam.fr/CGI/fpage.cgi?12XAE54.17/318/100/831/16/830>

* “Verslag van den Directeur ... Rijks Ethnographisch Museum
(Netherlands) – 1900” の記述によれば東京彫工会第十四回彫刻競技会にて
銅賞牌を授与された高石重義作の龍も出品されたとみられる。

明治36年 (1903)

東京美術学校「第一回美術祭」遺蹟展覧会

・明珍信家

伸縮龍 一個 矢吹秀一出品

各学科ごとに祭神を定め、遺蹟展覧会としてそれぞれの祭神に因んだ遺作や遺物が展示され
た。鍛金科の

祭神は明珍信家。

『風俗画報』 (279号 東陽堂 1903年) 掲載の山下重民「美術祭」による。

明治45年 (1912)

展覧会等への出品ではないが、東京帝室博物館が作者本人から購入。

・里見重義

「純銀製自在 龍」（箱書による）

『MUSEUM 東京国立博物館美術誌 507号』所載 原田一敏「自在置物について」
（東京国立博物館編 1993年）

里見重義の略歴については『東京帝室博物館美術工芸部目録 第1区 金属品』
（東京帝室博物館編 大正7年）に記載あり。天保14年生、浅草三筋町住。

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/936376/94>

大正4年（1915）

大典記念京都博覧会

・高瀬虎吉

「鐵製海老置物」

銅賞

京都市編『大典記念京都博覧会報告』（京都市 大正5年）

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/944446/307>

Christie's オークションに出品されたこの作品と思われるものの箱書から
高瀬好山工房の宗明が製作したとみられる。

<http://www.christies.com/lotfinder/lot/an-iron-articulated-lobster-signed-muneaki-5829302-details.aspx?pos=4&intObjectID=5829302&sid&page=8>

昭和4年（1929）

京都美術工芸品展覧会

・高瀬好山

「銀伊勢海老置物」「鐵製鯉置物」

『京都美術工芸品展覧会図録』（京都美術工芸品展覧会編 昭和5年）

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1187673/30>

昭和9年（1934）

中沢岩太博士喜寿祝賀記念展覧会（京都、東京）

・高瀬好山

京都市公会堂東館 六月一日、二日、三日

「鐵河海老置物」「四分一蛇置物」「渡銀蟹文鎮」

東京商工奨励館 六月十一日、十二日、十三日

「鐵河海老置物」「四分一蛇置物」

『中沢岩太博士喜寿祝賀記念帖』（中沢岩太博士喜寿祝賀記念会 昭和10年）

by Hisashi Moriyama (森山 寿) sushi5150@yahoo.co.jp